

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600248		
法人名	総合ケア株式会社		
事業所名	そうごうケアホーム下鴨(2階ユニット)		
所在地	京都市左京区下鴨神殿町17番		
自己評価作成日	令和3年6月15日	評価結果市町村受理日	令和3年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>そうごうケアホーム下鴨はオープンしてから2年が経ちます。開設当時と比較すると施設全体としても四季に応じたレクリエーションを展開し入居者様の五感を刺激する関りや思い出作りも行っていると思います。今後も季節に応じたレクリエーションや行事を行えればと考えております。また、1人1人に役割をもって日々の生活を送って頂きADL・QOLの向上に繋げていければと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>下鴨本通りと閑静な住宅地に挟まれた、1ユニット8名の3ユニットのグループホームです。近隣は住宅地や公園、昔ながらの商店があり、過ごしやすい環境になっています。開設3年目を迎える事業所で、管理者・計画作成担当者が中心になり、職員とのコミュニケーションを密に取りながら、質の高いケアを提供できるよう日々検討と実践を繰り返しています。管理者の介護に対する熱い想いを具現化できるよう、フロア毎に管理者からの格言を貼り、コミュニケーションを欠かさず取るようしています。コロナ禍にあっても、可能な限りこれまで同様の生活をするという想いから、時間や場所の制限はあるものの、面会や近隣への散歩を継続しています。また、事業所理念「利用者様ファースト」を掲げ、できる限り一人ひとりの入居者の希望に沿った支援ができるよう日々奮闘しています。おやつの人気投票や食事レクの工夫、委託業者のおやつに不満がある際には急遽手作りに変更するなど、常に臨機応変に最適な支援ができるよう心掛けています。今月(7月)には、駐車場でのピアガーデン(ノンアルコール)を企画するなど、入居者の希望を第一に考えた支援ができるように努めています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念はユニットに掲示しており実践できるよう月初めに復唱し理念に沿った支援を心掛けている。	開設時に管理者の想いをもとに、職員と議論し決めた事業所理念「利用者様ファースト」を掲げ、入居者一人ひとりの想いや生活リズムを大切にしたり関りが持てるよう指導しています。管理者は職員との関りの中で、常に「何のためにやるのか」を問い掛け、理念が実際の行動に繋がるよう支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治にも加入しています。 2か月に1度地域ケア会議・下鴨学区高齢者SOSネットワーク会議参加させています。	コロナ禍前は、近隣小学校での認知症サポーター養成講座や、区民運動会への参加を通じて地域との関りを深めていましたが、現在は自粛となっています。近隣の公園で実施される毎週の体操に参加し、地域住民との関りは継続しています。地域包括主催のSOSネットワーク会議への参加を通じて、地域の徘徊リスクのある方の情報共有を行い、地域の見守り活動への協力も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域運営推進会議の場で個人情報に気をつけながら近況報告や症状・支援の内容を説明し理解して頂けるようお話していたが現状、コロナ関係で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ感染の為、実施できていないが以前は2か月に1度ご家族様・地域包括・民生員さんと施設の月間報告・運営状況意見等話し合いが行っています。	2ヶ月に一度、書面開催にて実施しており、議事録は家族や地域包括に送付しています。地域包括からは、上記のSOSネットワーク会議時に意見を聴くようにしています。	左記のように地域包括からは別機会に意見を聴くようにしてはいるものの、従来の参加者への事前の意見照会が行われていません。顔を合わせての開催ができないからこそ、会議前に関係者へ意見照会をし、会議で話し合ったことをフィードバックしていくという取り組みも必要なことと思われれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月広報誌をもって訪問している。施設内にて事故が発生した時にも速やかに文書にて報告している。	運営推進会議の議事録は、毎月発行している広報誌とともに役所の窓口へ出向き、手渡しをしています。事故報告等についても速やかに報告を行い、顔の見える関係性が途切れないよう努めています。役所主催の事業者連絡会等も現在のところ中止になっていることから、オンラインでの開催が待たれるところです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体的虐待や心理的虐待への理解を忘れない為、フロア会議後、研修を行っている。玄関の施錠に関しては気候の良い時期にはオープンにする取り組みをしている(換気含む)	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、マニュアルも整備されています。3ヶ月毎の委員会活動と、年2回の研修は実施してはいるものの、年間研修計画に明確に定めるまでには至っていません。スピーチロックを含めた、不適切ケアの研修を実施し、職員の身体拘束や不適切ケアへの意識を高めています。	法定研修も含め、研修内容を明確に定め、計画的に研修を実施する必要があります。また、経験や知識レベルに差のある職員の身体拘束に関する理解度を計測するような取り組みも求められます。(自己チェックシートなど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修を通して虐待防止への理解を図っている。高齢者虐待についての研修を行い意識を常に持ち職員間で虐待を起こさない・見過ごさない雰囲気作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用するご入居者様は現在までおられないが今後必要性のあるご入居者様には関係機関への橋渡しをしたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての事項についてご理解頂けるよう丁寧に説明しご理解や同意を得るようにご入居者様・ご家族様とお話させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者への発信はこのご時世不十分ではあるがご家族様来所時には当施設に対しての要望やご意見を伺うようにしている。お話されにくい事がないよう投書箱も設置している。	面会時や電話の際に意見や要望などを聴き取るようにしています。最低でも月2回は家族へ電話をかけるようにしており、その際に聴き取った内容は、運営推進会議の議事録でも公表しています。入居者の食の希望をこまめに聴くようにし、食事へ反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に問題や疑問が生じた場合、早急に解決すべき事実に対して速やかに解決する姿勢をとられている。	管理者や計画作成担当者が直接現場に入る機会が多いことから、日頃の業務の中で様々な意見や要望などを聴き取るようにしています。また毎月実施されるフロア会議の前にも、事前に一人ひとりの職員から意見を聴き取り、会議の場で話し合うようにしています。	フロア会議は毎月実施されていますが、グループホームとしての全体会議が実施されていません。法人としての決定事項や連絡事項の落とし込み(全体会議)、現場運営の話し合いやカンファレンス(フロア会議)など、会議体を分けることによって、メリハリのある運営と人材育成に繋がると思われます。ご検討ください。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個別面談を行うことはオープン当初はあったが現在はない。職員の就労意欲向上の為に要望や悩みを聞く場を設けており対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は1ヶ月に1度行われており施設全体でのスキルアップを心掛けている。また今後の研修においてより実践的な研修を行うことが課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議などでリモート出席し交流や情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前からご本人様やご家族様にはご本人様にとってどのような支援が大切であり安心につながるのか些細な事も話せるような雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学から入居に至るまで現状を十分に説明した上で、ご本人様のお気持ちにも耳を傾け少しでも不安解消できるように信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様からの気持ちを汲み取り必要な支援について専門医やサービス機関の意見も参考にしながら検討することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活の中の一員であり、できることは一緒に行い難しいことは一緒に手助けフォローする関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も定期的な面会や外出支援、ご家族様にご入居後の様子をお伝えできる状態を続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、来所や外出が厳しい状況でありLINEを通して少しでも交流を持ち続けて頂けるようサポートしている。	コロナ禍の中、面会や外出機会は減ってはいるものの、換気やパーティション設置、時間制限をするなど、感染症対策を講じた上での面会を継続しています。家族協力での美容室等への外出、自宅への月数回の一時帰宅など、自粛期間の中でも可能な限りそれまでの生活が継続できるよう支援しています。また新聞の購読・編み物・写経など、入居前からの趣味を継続されている方もおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉の出にくさや耳の聞き取りにくい方まで様々な方が生活されているが職員がその間に入り交流をもてる・もって頂くよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もお手紙を頂いたり変わらない関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で望んでおられることを考えながらモニタリングを行っている。中には24時間シートを活用し気持ちに寄り添うケアもしている。また、状況の変化には常にユニット内で話しあっている。	介護計画の見直しの際のアセスメント時に、改めて意見や要望を聴き取るようにしています。また日常的な関りの中では、職員との会話から新たに聴き取った内容は、介護記録に記載することで情報共有をしています。但し、職員によりその内容に差はあるようです。	個人の生活習慣や思い出、気持ちの変化などは、それを知りケアに活かすことで、より一層のケアの質向上に繋がります。職員が入居者一人ひとりの情報を把握し、共有していく仕組みとして、センター方式の書式(C-1-2)などを活用してみたいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣などご入居者様のお話の中からシートに記入し情報共有に努めている。中にはご家族様にお願いし力を貸して頂いている方もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中に沢山の情報が有り、表情や行動隠れた思いを汲み取る努力をしている。情報共有にも力をいれている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに関しては日々の状態と会議において出た意見・日々の記録を反映した中にご本人様・ご家族様の意見や要望を取り入れたプラン作成を行っている。	短期目標の期間(6ヶ月)ごとに再アセスメントを行うとともに、毎月のフロア会議で状態を把握し、毎月のモニタリング結果を踏まえ、計画の見直しを行っています。また往診時の医師の意見に加え、主治医や専門医に毎月意見照会を行い、必要なアドバイスをもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常生活に関することを入力している。今後、問題点や変化についてもわかりやすくプランに反映していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや高齢で車の運転が困難な家族様に対して送迎を行ったり等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあいセンターで行われるオレンジカフェの参加やお手伝い・喫茶使用にて楽しむことができるよう支援している。また近隣の公園までの散歩の際の地域住民との交流も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の意向を把握した上でかかりつけ医を決定している。協力医療機関の定期訪問診療以外にも必要に応じて必要な医療を受けて頂いている。	かかりつけ医の往診が可能な場合は、本人や家族の希望があれば、継続できるように支援しています。専門医の受診は家族協力が必要ですが、状況に応じて職員が付き添いを行うこともあります。協力医療機関による月2回の往診と、本人・家族の希望での訪問歯科もあり、一人ひとりに合った医療が提供できるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんな些細な事でも気になった事は報告しそこで与えられた指示に従いケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場所は医療機関を通して施設に送ると共に施設においての細かな情報も書面や電話にてお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療体制について説明し重度化の可能性がみられた時点で家族様やご本人様の意向を確認し終末期プランを立案し職員間で共有しケアに努めている。	「重度化した場合に係る指針」「看取りに関する指針」を作成し、契約時に説明の上、同意及び意向確認を行っています。看取り自体の実績はありませんが、事業所としても終の棲家としての役割を果たせるよう、看取りにも取り組んでいく予定です。	現在の協力医療機関の体制に若干の不安があるようです。看取りを行う場合は、近隣で24時間365日の協力が可能な医療機関とも契約を行うことが望まれます。また看取りに備えた、職員研修も定期性を以て実施されることが求められます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に会議の際、緊急時等の対応については話し合っており、マニュアルを作成し新入社員でも対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っている。オール電化ではあるがもしもの際の自主点検マニュアルも今後作成予定である。	消防署の協力による夜間想定を含めた消防訓練を年2回実施しています。現在はまだ実施できていませんが、自然災害や停電想定も実施予定です。災害備蓄品としては、飲料水・レトルト食品・缶詰などが概ね入居者1日分、また職員・入居者向けの有料置き菓子サービス(飲料品含む)や、カセットコンロなどを備えています。今後の充実が課題です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の施錠・更衣時に扉を開けたまま行う等自尊心を傷つけない対応を常に心がけ実施している。	年間研修計画の「接遇・マナー研修」の中で、プライバシーに配慮したケアの提供についても学べるようにしています。尊厳を保持し恥ずかしい思いをさせないよう声掛けにも配慮し、特に排泄時の支援については注意をしています。現在は不適切な声掛け等があった際に、職員同士が互いに注意しあえるよう、管理者が中心となって指導をしているところです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のティータイムもメニュー表を作成し選んで頂く等、ご本人様の要望を聞けるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムなどを大切にしながら個々に合わせた支援を心掛けているが入浴については清潔保持もあり意向を聞きつつ常に声掛けには工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び等、ご本人様の意見で選べない方もおられるがホットタオルで洗髪の際、拭いて頂く・髪のみだれを直す・パックをしてもらう方などそれぞれに合った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にご入居者様の食べたい物や懐かしく感じる物・物珍しい物など話し合いながら一緒に調理をする機会を設けている。	外部委託業者からの献立と配食での提供になっていますが、盛り付けや片付けなどを入居者と一緒に行っています。季節の行事食も献立に含まれていますが、入居者の好みを聞きながら、月に2回はフロア毎に食事レクを実施し、誕生日の特別食や、手作りおやつを職員と入居者が一緒に作るなど、楽しく食事ができる工夫がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい工夫をしおにぎりや白米が苦手な方にはご家族様に相談しふりかけや佃煮を利用したりムセの強い方にはゼリー対応を行うなど個々の状態に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。訪問歯科や衛生士の助言も頂きながら口腔ケアにあたっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから布パンツに移行した方もおられる。不安なく排泄が行えるよう今後も継続してサポートしていく。	現在は日中のおむつ使用の方はおられず、排泄サインを見逃さないようにしながら、声掛け誘導によりトイレで排泄ができるように支援しています。自宅や病院から入居された時点では、おむつを使用されていた方も、紙パンツや布パンツになるなど、支援の成果が出ています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に繋がるよう乳製品を提供している方もおられる。なるべく不快な排便にならないよう薬を服用されている方にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分ムラがあり拒否が多い方には声掛けのタイミングや言葉使いに注意している。その他の方に対しても午前や午後など伺ってから入浴して頂けるよう努めている。	週2回、午前中の中の入浴が基本となっていますが、体調や気分を見ながら臨機応変な対応ができるようにしています。シャンプーやボディソープも皮膚の状態を見ながら個人の好みや希望を聞き、家族協力により一人ひとりに合うものを持ち込んでもらっています。しょうぶ湯やゆず湯など、季節のお風呂も楽しめるよう支援しています。現在、就寝前の入浴をどう実現するかを検討しているとのことです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中の活動の声掛けは行っているがつかないケースもあり入眠前の温かい飲み物や足浴等、工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルにあり誰でも内容を把握できるようにしている。内服等の変更がある際は情報を送り薬剤ボックス内にも内容を明記しセット時に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞購読や毎朝パン食の方は自宅と変わらない生活ができるようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、感染対策として外出は行っていないがマンツーマンでの散歩は継続して行っている。	コロナ感染症予防対策として、イベント外出などは自粛していますが、近隣の公園や事業所外周など、近場での散歩は継続的に実施しています。感染対策を行ったうえでコンビニへの買い物外出も実施しています。社有車が軽自動車ということもあり、少人数でのドライブ外出も計画中です。遠距離のドライブ外出も家族と相談しながら実施に向けて計画中です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設では金銭の管理は行っていないが施設立替にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ビデオ電話を利用して頂いたりお正月には年賀状を作成し家族様とのつながりが絶えないように心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる掲示物や廊下に写真を貼ったりして楽しんで頂いている。体温調整の難しい方もおられ室温にも気をつけている。	各フロアで工夫された季節の飾りつけを行ったり、行事の際の写真飾りつけを行っています。起床時には居室の換気を欠かさず行い、リビングでも1日5回の換気を実施し、感染症対策や臭気対策にもなっています。居心地の良さも一人ひとり違うため、テレビもつけっ放しにはせず、一人ひとりの様子や希望を聞きながら、スイッチのオン・オフをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるがリクライニングソファを利用し休まれる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具やTV・お茶碗やコップなどを持ってきて頂き自宅で過ごしているのと変わらないような工夫を行っている。	入居時には使い慣れたものや馴染みのものを持参してもらおう働きかけています。豪華な椅子を持ち込まれ、書斎スペースを作られる方や、仏壇を持ち込まれている方もいます。一人ひとりの居室には行事や日頃の写真に職員がコメントをしたアルバムが置かれており、思い出を形として残す取り組みにもなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の応じた支援を実施		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600248		
法人名	総合ケア株式会社		
事業所名	そうごうケアホーム下鴨(3階ユニット)		
所在地	京都市左京区下鴨神殿町17番		
自己評価作成日	令和3年6月15日	評価結果市町村受理日	令和3年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>そうごうケアホーム下鴨はオープンしてから2年が経ちます。開設当時と比較すると施設全体としても四季に応じたレクリエーションを展開し入居者様の五感を刺激する関りや思い出作りも行っていると思います。今後も季節に応じたレクリエーションや行事を行えばと考えております。また、1人1人に役割をもって日々の生活を送って頂きADL・QOLの向上に繋げていければと思っております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階ユニットに同じ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年7月5日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念はユニットに掲示しており実践できるよう月初めに復唱し理念に沿った支援を心掛けている。	2階ユニットに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治にも加入しています。2か月に1度地域ケア会議・下鴨学区高齢者SOSネットワーク会議参加させています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域運営推進会議の場で個人情報に気をつけながら近況報告や症状・支援の内容を説明し理解して頂けるようお話ししていたが現状、コロナ関係で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ感染の為、実施できていないが以前は2か月に1度ご家族様・地域包括・民生員さんと施設の月間報告・運営状況意見等話し合いが行えています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月広報誌をもって訪問している。施設内にて事故が発生した時にも速やかに文書にて報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体的虐待や心理的虐待への理解を忘れない為、フロア会議後、研修を行っている。玄関の施錠に関しては気候の良い時期にはオープンにする取り組みをしている(換気含む)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修を通して虐待防止への理解を図っている。高齢者虐待についての研修を行い意識を常に持ち職員間で虐待を起こさない・見過ごさない雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用するご入居者様は現在までおられないが今後必要性のあるご入居者様には関係機関への橋渡しをしたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての事項についてご理解頂けるよう丁寧に説明しご理解や同意を得るようにご入居者様・ご家族様とお話させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者への発信はこのご時世不十分ではあるがご家族様来所時には当施設に対しての要望やご意見を伺うようにしている。お話しにくい事がないよう投書箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に問題や疑問が生じた場合、早急に解決すべき事実に対して速やかに解決する姿勢をとられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個別面談を行うことはオープン当初はあったが現在はない。職員の就労意欲向上の為に要望や悩みを聞く場を設けており対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は1ヶ月に1度行われており施設全体でのスキルアップを心掛けている。また今後の研修においてより実践的な研修を行うことが課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議などでリモート出席し交流や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前からご本人様やご家族様にはご本人様にとってどのような支援が大切であり安心につながるのか些細な事も話せるような雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学から入居に至るまで現状を十分に説明した上で、ご本人様のお気持ちにも耳を傾け少しでも不安解消できるように信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様からの気持ちを汲み取り必要な支援について専門医やサービス機関の意見も参考にしながら検討することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活の中の一員であり、できることは一緒に行い難しいことは一緒に手助けフォローする関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も定期的な面会や外出支援、ご家族様にご入居後の様子をお伝えできる状態を続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、来所や外出が厳しい状況でありLINEを通して少しでも交流を持ち続けて頂けるようサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉の出にくさや耳の聞き取りにくい方まで様々な方が生活されているが職員がその間に入り交流をもてる・もって頂くよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もお手紙を頂いたり変わらない関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で望んでおられることを考えながらモニタリングを行っている。中には24時間シートを活用し気持ちに寄り添うケアもしている。また、状況の変化には常にユニット内で話しあっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣などご入居者様のお話の中からシートに記入し情報共有に努めている。中にはご家族様にお願いし力を貸して頂いている方もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中に沢山の情報が有り、表情や行動隠れた思いを汲み取る努力をしている。情報共有にも力をいれている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに関しては日々の状態と会議において出た意見・日々の記録を反映した中にご本人様・ご家族様の意見や要望を取り入れたプラン作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常生活に関することを入力している。今後、問題点や変化についてもわかりやすくしプランに反映していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや高齢で車の運転が困難な家族様に対して送迎を行ったり等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあいセンターで行われるオレンジカフェの参加やお手伝い・喫茶使用にて楽しむことができるよう支援している。また近隣の公園までの散歩の際の地域住民との交流も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の意向を把握した上でかかりつけ医を決定している。協力医療機関の定期訪問診療以外にも必要に応じて必要な医療を受けて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんな些細な事でも気になった事は報告しそこで与えられた指示に従いケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場所は医療機関を通して施設に送ると共に施設においての細かな情報も書面や電話にてお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療体制について説明し重度化の可能性がみられた時点で家族様やご本人様の意向を確認し終末期プランを立案し職員間で共有しケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な会議の際、緊急時等の対応については話し合っており、マニュアルを作成し新入社員でも対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っている。オール電化ではあるがもしもの際の自主点検マニュアルも今後作成予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の施錠・更衣時に扉を開けたまま行う等自尊心を傷つけない対応を常に心がけ実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のティータイムもメニュー表を作成し選んで頂く等、ご本人様の要望を聞けるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムなどを大切にしながら個々に合わせた支援を心掛けているが入浴については清潔保持もあり意向を聞きつつ常に声掛けには工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び等、ご本人様の意見で選べない方もおられるがホットタオルで洗髪の際、拭いて頂く・髪のみだれを直す・バックをしてもらう方などそれぞれに合った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にご入居者様の食べたい物や懐かしく感じる物・物珍しい物など話し合いながら一緒に調理をする機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい工夫をしおにぎりや白米が苦手な方にはご家族様に相談しふりかけや佃煮を利用したりムセの強い方にはゼリー対応を行うなど個々の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。訪問歯科や衛生士の助言も頂きながら口腔ケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから布パンツに移行した方もおられる。不安なく排泄が行えるよう今後も継続してサポートしていく。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に繋がるよう乳製品を提供している方もおられる。なるべく不快な排便にならないよう薬を服用されている方にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分にもうがあり拒否が多い方には声掛けのタイミングや言葉使いに注意している。その他の方に対しても午前や午後など伺ってから入浴して頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中の活動の声掛けは行っているがつかないケースもあり入眠前の温かい飲み物や足浴等、工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルにあり誰でも内容を把握できるようにしている。内服等の変更がある際は情報を送り薬剤ボックス内にも内容を明記しセット時に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞購読や毎朝パン食の方は自宅と変わらない生活ができるようサポートしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、感染対策として外出は行っていないがマンツーマンでの散歩は継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設では金銭の管理は行っていないが施設立替にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ビデオ電話を利用して頂いたりお正月には年賀状を作成し家族様とのつながりが絶えないように心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる掲示物や廊下に写真を貼ったりして楽しんで頂いている。体温調整の難しい方もおられ室温にも気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるがリクライニングソファを利用し休まれる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具やTV・お茶碗やコップなどを持ってきて頂き自宅で過ごしているのと変わらないような工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の応じた支援を実施		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600248		
法人名	総合ケア株式会社		
事業所名	そうごうケアホーム下鴨(4階ユニット)		
所在地	京都市左京区下鴨神殿町17番		
自己評価作成日	令和3年6月15日	評価結果市町村受理日	令和3年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>そうごうケアホーム下鴨はオープンしてから2年が経ちます。開設当時と比較すると施設全体としても四季に応じたレクリエーションを展開し入居者様の五感を刺激する関りや思い出作りも行えていると思います。今後も季節に応じたレクリエーションや行事を行えばと考えております。また、1人1人に役割をもって日々の生活を送って頂きADL・QOLの向上に繋げていければと思っております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階ユニットに同じ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年7月5日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念はユニットに掲示しており実践できるよう月初めに復唱し理念に沿った支援を心掛けている。	2階ユニットに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治にも加入しています。2か月に1度地域ケア会議・下鴨学区高齢者SOSネットワーク会議参加させています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域運営推進会議の場で個人情報に気をつけながら近況報告や症状・支援の内容を説明し理解して頂けるようお話ししていたが現状、コロナ関係で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ感染の為、実施できていないが以前は2か月に1度ご家族様・地域包括・民生員さんと施設の月間報告・運営状況意見等話し合いが行えています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月広報誌をもって訪問している。施設内にて事故が発生した時にも速やかに文書にて報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体的虐待や心理的虐待への理解を忘れない為、フロア会議後、研修を行っている。玄関の施錠に関しては気候の良い時期にはオープンにする取り組みをしている(換気含む)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修を通して虐待防止への理解を図っている。高齢者虐待についての研修を行い意識を常に持ち職員間で虐待を起こさない・見過ごさない雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用するご入居者様は現在までおられないが今後必要性のあるご入居者様には関係機関への橋渡しをしたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての事項についてご理解頂けるよう丁寧に説明しご理解や同意を得るようにご入居者様・ご家族様とお話させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者への発信はこのご時世不十分ではあるがご家族様来所時には当施設に対しての要望やご意見を伺うようにしている。お話しにくい事がないよう投書箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に問題や疑問が生じた場合、早急に解決すべき事実に対して速やかに解決する姿勢をとられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個別面談を行うことはオープン当初はあったが現在は無い。職員の就労意欲向上の為に要望や悩みを聞く場を設けており対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は1ヶ月に1度行われており施設全体でのスキルアップを心掛けている。また今後の研修においてより実践的な研修を行うことが課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議などでリモート出席し交流や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前からご本人様やご家族様にはご本人様にとってどのような支援が大切であり安心につながるのか些細な事も話せるような雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学から入居に至るまで現状を十分に説明した上で、ご本人様のお気持ちにも耳を傾け少しでも不安解消できるように信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様からの気持ちを汲み取り必要な支援について専門医やサービス機関の意見も参考にしながら検討することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活の中の一員であり、できることは一緒に行い難しいことは一緒に手助けフォローする関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も定期的な面会や外出支援、ご家族様にご入居後の様子をお伝えできる状態を続けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、来所や外出が厳しい状況でありLINEを通して少しでも交流を持ち続けて頂けるようサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉の出にくさや耳の聞き取りにくい方まで様々な方が生活されているが職員がその間に入り交流をもてる・もって頂くよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もお手紙を頂いたり変わらない関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で望んでおられることを考えながらモニタリングを行っている。中には24時間シートを活用し気持ちに寄り添うケアもしている。また、状況の変化には常にユニット内で話しあっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣などご入居者様のお話の中からシートに記入し情報共有に努めている。中にはご家族様にお願いし力を貸して頂いている方もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中に沢山の情報が有り、表情や行動隠れた思いを汲み取る努力をしている。情報共有にも力をいれている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに関しては日々の状態と会議において出た意見・日々の記録を反映した中にご本人様・ご家族様の意見や要望を取り入れたプラン作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常生活に関することを入力している。今後、問題点や変化についてもわかりやすくしプランに反映していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや高齢で車の運転が困難な家族様に対して送迎を行ったり等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあいセンターで行われるオレンジカフェの参加やお手伝い・喫茶使用にて楽しむことができるよう支援している。また近隣の公園までの散歩の際の地域住民との交流も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の意向を把握した上でかかりつけ医を決定している。協力医療機関の定期訪問診療以外にも必要に応じて必要な医療を受けて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんな些細な事でも気になった事は報告しそこで与えられた指示に従いケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場所は医療機関を通して施設に送ると共に施設においての細かな情報も書面や電話にてお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療体制について説明し重度化の可能性がみられた時点で家族様やご本人様の意向を確認し終末期プランを立案し職員間で共有しケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な会議の際、緊急時等の対応については話し合っており、マニュアルを作成し新入社員でも対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っている。オール電化ではあるがもしもの際の自主点検マニュアルも今後作成予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の施錠・更衣時に扉を開けたまま行う等自尊心を傷つけない対応を常に心がけ実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時のティータイムもメニュー表を作成し選んで頂く等、ご本人様の要望を聞けるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムなどを大切にしながら個々に合わせた支援を心掛けているが入浴については清潔保持もあり意向を聞きつつ常に声掛けには工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び等、ご本人様の意見で選べない方もおられるがホットタオルで洗髪の際、拭いて頂く・髪のみだれを直す・バックをしてもらう方などそれぞれに合った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にご入居者様の食べたい物や懐かしく感じる物・物珍しい物など話し合いながら一緒に調理をする機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい工夫をしおにぎりや白米が苦手な方にはご家族様に相談しふりかけや佃煮を利用したりムセの強い方にはゼリー対応を行うなど個々の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。訪問歯科や衛生士の助言も頂きながら口腔ケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから布パンツに移行した方もおられる。不安なく排泄が行えるよう今後も継続してサポートしていく。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に繋がるよう乳製品を提供している方もおられる。なるべく不快な排便にならないよう薬を服用されている方にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分にもうがあり拒否が多い方には声掛けのタイミングや言葉使いに注意している。その他の方に対しても午前や午後など伺ってから入浴して頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中の活動の声掛けは行っているがつかないケースもあり入眠前の温かい飲み物や足浴等、工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルにあり誰でも内容を把握できるようにしている。内服等の変更がある際は情報を送り薬剤ボックス内にも内容を明記しセット時に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞購読や毎朝パン食の方は自宅と変わらない生活ができるようサポートしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、感染対策として外出は行っていないがマンツーマンでの散歩は継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設では金銭の管理は行っていないが施設立替にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ビデオ電話を利用して頂いたりお正月には年賀状を作成し家族様とのつながりが絶えないように心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる掲示物や廊下に写真を貼ったりして楽しんで頂いている。体温調整の難しい方もおられ室温にも気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるがリクライニングソファを利用し休まれる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具やTV・お茶碗やコップなどを持ってきて頂き自宅で過ごしているのと変わらないような工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の応じた支援を実施		